

# 入間市防災ハザードマップ

埼玉県内を襲う地震の震源はいくつも考えられています。北関東地域に予想される直下型地震などに備えることが必要です。災害が入間市にも発生し、自分や家族が巻き込まれたら、みなさんはどうしますか。この機会にきちんと整理してみましょう。

## 防災ハザードマップの使い方

台風や地震など、いろいろな災害がありますが、この防災ハザードマップは地震災害の発生時を予想して作成してあります。上段には地震への備えと心構えを、下段には防災情報マップを載せてあります。地震が起きた時の状況を想定しながら、自分の行動や家庭の備え、そしてわが家のまわりの防災情報を確認してみましょう。

このマップを広げ、ぜひ「わが家の防災計画」について、ご家庭で話し合ってみてください。

〈入間市役所防災防犯課 ☎04-2964-1111〉

## 地震がおきたら、その時どうする？

### 大地震が起きたら、こうなる！

- 道路** 看板や電柱などが倒れたり、地割れなども発生します。信号機も壊れて交差点は混乱します。道路の大混乱は、消火・救済・救助・避難活動に大きな支障を与えます。
- 火災** 各所で同時に火災が発生します。気象条件によってはたちまち大火になります。消防力にも限りがあり、すべての火災に消防車が出動できるとは限りません。電話の不通で消防署に通報できず、道路の混乱で消防車も立ち往生します。
- ケガ病氣** 医療施設も被害を受けます。ふだんの入院患者のほかに、多くの傷病者が発生します。救急車も交通の混乱で走行困難です。医薬品も不足します。ふだんのような医療は決して望めません。
- 水** 水道管が壊れるなどで、広い地域での断水が想定され、2・3日間は飲料水さえ輸送できない地域もできます。
- 食糧** 電気・ガス・水道がストップしていたら、冷蔵庫は使えず、煮炊きもできません。赤ちゃんはミルクも飲めなくなります。商店の在庫も大量にありません。
- 生活用品** 懐中電灯やラジオがあっても電池が切れたら使えず、マッチがないと特に困ります。
- トイレ** 水流式や浄化槽式トイレは、断水・停電で使えなくなります。下水道施設も使えません。し尿・ゴミ収集活動もストップします。
- ガス** プロパンガスは、ボンベが倒れるなどしてガス漏れの危険が伴います。安全確認をしないで火を使ったり、電気のスイッチを入ると引火することがあります。都市ガスは全面復旧までかなりの時間がかかります。
- 電気** 火災や家屋の倒壊などの二次災害により停電します。照明はもちろん、テレビ・ラジオなどの情報源も使えません。高層住宅は、水も貯水槽に上がらなくなります。エレベーターも止まります。
- 電話** ケーブルの断線があれば通話不能になります。そうでなくても、被災状況や安否の問い合わせ等が殺到し、通話不能になります。そのため、緊急事態に対応できるよう、一般電話の発信は制限させられます。

### 大地震が起きたら、こうしよう！

- 道路**
  - ドライバーは、避難する人や緊急自動車が通行できるよう道路の中央部をあける。
  - 地震の後は、自動車を使わない。
- 火災**
  - 火がでたら、大きくならぬうちに消す。
  - 大声で近所の人に知らせ、応援を求める。
  - 自主防災会で消火にあたる。
- ケガ病氣**
  - 家族・近所で助け合う。
  - 家庭に備えてある医薬品を使う。
  - 自主防災会で応急手当をする。
- 水**
  - ポリタンクや風呂などにためておいた水を使う。
  - 災害用指定井戸を使わせていただく。
  - プール・池・川の水をろ過器でこして使う。
  - 災害対策本部からの給水車を待つ。
- 食糧**
  - 家庭に備蓄しておいた、常温で保存ができ、煮炊きをしなくて済むものを備蓄しておく。
  - 地区・自主防災会で炊き出しを行う。
- 生活用品**
  - 各個人・家庭の必要に応じて準備しておいたものでまかなう。
  - 近所で貸し借りする。
- トイレ**
  - し尿は地面に穴を掘って埋めるかポリ袋などにためる、または仮設トイレを使う。
  - ゴミは、収集が始まるまでためておく。
- ガス**
  - 卓上コンロ、固形焼料、七輪、練炭、木炭を使う。
- 電気**
  - 懐中電灯、ろうそくを使う。
  - 自家発電・バッテリーを使う。
- 電話**
  - 不要不急の電話はしない。

## 災害用伝言ダイヤル

これは、被災地域内やその他の地域の方々との「声の伝言板」です。

### ご利用方法

- \*「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。
- \*録音された伝言は被災地の方の電話番号を知っているすべての方が聞くことができます。
- \*提供開始や録音件数等、提供条件についてはNTTで決定し、テレビ・ラジオ等でお知らせします。

#### 伝言の録音方法

- 171にダイヤルする
- ガイダンスが流れます
- 録音の場合 ①
- ガイダンスが流れます
- (04)29xx-xxxx

#### 伝言の再生方法

- 171にダイヤルする
- ガイダンスが流れます
- 再生の場合 ②
- ガイダンスが流れます
- (04)29xx-xxxx

被災地内の方も、被災地以外の方も被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

### いくつか例をあげてみましたが、あなたも考えてみましょう。ふだんの備えや訓練なしには、どうにもならないことなのです。

このように、地震が起きると生活に大きな影響を与えます。被害の大きい地域では、行政の応急活動も思うように進まず、災害発生から3日間は水や生活物資の供給が、ほとんどできないと思われまます。いざという時のために、みなさん全員の分の食糧や生活物資を行政が備蓄しておくことには限りがあります。みなさん一人ひとりが「助かるう」という気持ちを持っていただければなりません。

### 携帯電話 災害用伝言板サービス

震度6弱以上の地震などの大きな災害が発生した時に、携帯電話・PHSを利用して自身の安否情報を登録、家族や友人の安否情報を確認することができます。それぞれの携帯電話・PHSの「トップメニュー」から「災害用伝言板」を選択してください。他社携帯・PHSおよびパソコンなどからも、家族や友人の安否情報をご確認いただけます。

- NTT ドコモ <http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>
- au by KDDI <http://dengon.ezweb.ne.jp/>
- ソフトバンクモバイル <http://dengon.softbank.ne.jp/>
- イー・モバイル <http://dengon.emnet.ne.jp/>
- ウィルコム <http://dengon.willcom-inc.com/>

## こうなった時、一番大切なのは日ごろの備え！

### 災害・防災について正しい理解を持っておこう

- いざという時の準備は、災害が起きてからでは遅すぎます。日ごろから防災について家族で考え、対策をたてておこう。
- 地震について正しい知識を身につけておこう。
- 避難場所、避難経路の確認
- 正確な情報収集



### 毎日の生活の中に、防災のための配慮を加えよう

- 火のまわりはいつも整理整頓しよう。
- 火を使う器具、プロパンガスなどの整備点検をしよう。
- 消火器や消火用水の用意と使い方を身につけよう。
- 家具を固定したり、不安定な物の置き方に注意しよう。
- わが家の耐震診断、ブロック塀などの安全対策をしよう。
- 水・食糧・生活用品を備えておこう。
- 非常持ち出し品を準備しておこう。
- 家族の集会所、連絡方法を確認しておこう。



### ご近所づきあいを大切にしよう

- ふだんからお互いに協力し合える信頼関係をつくっておこう。
- 自主防災会（自治会）に加入しよう。



### 防災訓練に参加しよう

- 「自分たちの街は自分たちで守ろう」という精神で、区や自治会を中心に実施している防災訓練に家族みんなで参加しよう。



### 家・塀の強度の点検と補強

ブロック塀、石塀などの倒壊は、基準どりの鉄筋が入っていないとか、転倒防止の擁壁を設けていないなど、施工上の欠陥によるものが多く、もう一度点検し、欠陥があるものは補強します。

### その他の注意

ガラスの破片が散乱した場合でも通路を確保できるように、台所などには座布団やスリッパなどを常備しておきます。

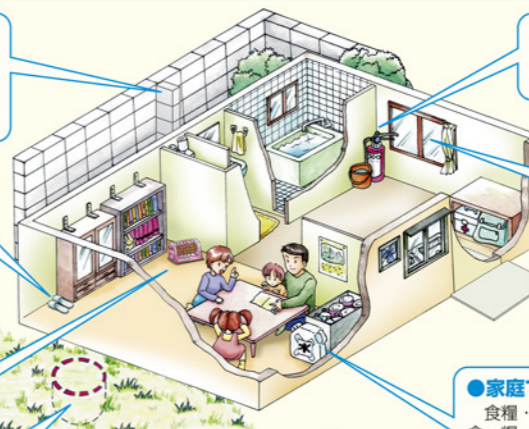


### ストーブの周辺はすっきりと

人の動きのじゃまにならない位置に置く。障子、ふすま、カーテンなどからは離して置く。自動消火装置の作動を時々確認する。（綿ぼこりをこまめに掃除する）

### し尿処理の備え

断水したら、水洗トイレは使用不可能になります。断水に備え、風呂へは常時水を汲み置くと、生活用水の準備も必要です。また、庭のある家庭では、仮設トイレの準備をしておきます。



### 消火の準備

いざという時のために消火器や三角バケツ、浴槽への水張など消火用水を用意しておきます。

### 窓ガラス飛散防止

ガラスはフィルムを貼る。但し、縦横に貼ってもサッシまで貼らないと大きな固まりで落下してくるので、必ずサッシまで貼るようにします。



### 家庭での備蓄

食糧・水は、最低3日間の備蓄が必要です。食糧＝米、もちなどの主食、缶詰、レトルト食品等の副食。米は、ふだんから多めに買って置きます。お年寄りや病人、乳幼児のための食品もお忘れなく。飲料水＝1日1人3ℓ3日分が必要です。

十分な備えと心構えができていれば、いざという時に落ち着いて行動できます。

## グラツときたらこうしよう！

### 個人でまずは自分でできることから

最初の大きな揺れは約1分間と言われています。恐ろしいのは地震による揺れと、地震により発生する火災などの二次的に起こる災害です。被害を最小限におさえるには、一人ひとりがあわてず適切な行動をとることが重要です。

- 1 身を守る：テーブルの下などに身をふせ、あわてて外へ飛び出さない。狭い路地、塀ぎわ、崖や川べりに近づかない。
- 2 火の始末：ガス器具、ストーブなど、すばやく火を消す。
- 3 出口の確保：窓や戸を開ける。
- 4 初期消火：火が出たらまず消火。



### ひとりの力は小さいもの、地域や自主防災会で協力し合えば大きな力

もし、あなたが倒れた家具の下敷きになってしまい、そばで火災が起こったら、消火器が目前にあってもどうにもできません。災害から身を守るためには、個人の力ではどうにもならないことがあります。また、災害対策本部や防災機関も全力をあげて救出活動を行います。市内各地で被害が多発すると通信手段や交通の混乱、消防力の分散などで十分に活動できないことも考えられます。頼りになるのは、近所・地域・自治会・自主防災会の人たちです。

- 1 初期消火：火が出たら協力して消火。
- 2 救出・救護：窓や戸を開ける。
- 3 冷静に避難：延焼や建物倒壊の危険性を感じた時は、冷静に判断して避難する。
- 4 避難誘導：地域の人や自主防災会と協力しあって、まとまって避難場所へ。
- 5 情報収集伝達：災害状況をとりまとめて連絡したり、災害対策本部からの指示を伝達する。
- 6 給食・給水：協力して炊き出しをしたり、飲料水の確保をする。



### 避難する時

火災や崖崩れなどの危険がなければ、家にいるのが一番です。避難場所で手厚い保護が受けられるとは限りません。避難は最後の手段です。

- 火災・崖崩れなどで生命に危険が迫った時
- 災害対策本部等から指示があった時
- 周囲の状況等から避難の必要があると感じた時



近所や自主防災会ごとに、徒歩で落ち着いて避難しましょう。避難先は、指定避難場所のうち避難しやすい場所、または指示された場所へ。

### 要援護者への支援

お年寄りや子ども・障害のある方などは、災害が発生した場合、情報収集や避難行動・避難生活などで困難な状況に置かれることが多く、災害時に一層の支援が必要となります。

- 要援護者自身及びその家族の方々には、地域との交流を保つように心がけ、いざというときの援助を依頼しておきましょう。



- 地域の皆さんは、要援護者の方が遠慮なく援助を申し出られるように、ふだんから動きかけや交流を持つよう心がけましょう。